

令和3年度 施設関係者評価実施報告書

令和4年3月8日

報告者氏名 坂崎 隆浩

評価者氏名 四ツ谷 隆輔



①全体評価

新型コロナ・ウィルスの猛威はおさまらず、この時期であっても青森県まんえん防止が続いている状態である。当園でも数人の罹患者がでたが、園の運営に影響を及ぼす状況でなかったことから、日常の保育及び大きな行事は無事行われた。一方10周年式典は中止になり、やむを得ないことであったが、記念誌など配付が出来たことは良かった。5歳児教育に関しては、こういう中、公開保育が行われ質向上に努めていた。今後は児童福祉関係である児童発達支援事業を4月から行う事を考えると、教育の質向上とともに教職員には一段とヒューマンサービスの質向上に励んでもらいたい。11年目という新しい節目に気持ちも新たにしていって取り組んでもらいたい。

②学校評価の個別評価

法人の教育・保育理念に基づいた指導
「全体的な計画」「教育課程」の下、各種指導計画が作成されて、又それに沿って各学年の発達に即した教育・保育が推進されている。
保健管理
コロナ対策は三長会、村教育委員会、小中学校との連携も適切にとられていたが、今後についての厳しい状況に対応する仕組みもとられた方が良い。
安全管理・災害への対応
避難訓練・安全教室の他、業者による施設点検もきちんとされている。昨年8月の大雨の対応も適切であった。
小学校との連携
スタートカリキュラムについては今後の文科省の行方を見て考えることとなった。
職員会議・ケース会議等
月一回の職員会議、給食会議の他、行事及び園児、コロナ等関する会議が行われていた。
研修(資質向上の取組)
園内研修、法人研修、外部研修が定期的に行われた。法人研修は特別な支援を必要とする対応への研修が本格的に行われた。
自己評価
チェックリストによる総合的な自己評価と週、月、学期毎の教育・保育の評価がきちんとされている。
情報提供
コロナへの対応連絡、行事の変更に対して園だよりや保健だより、玄関掲示により必要な情報が提供された。
保護者・家庭との連携
保護者においてはコロナの厳しい局面に理解を求めながら、縮小の中、行事等への参加がされた。保護者に対する御礼の言葉が園長よりあった。
子育ての支援
主幹保育教諭を中心として、定期的に保育や保健衛生の情報提供などの相談対応が出来ていた。又、指導相談所への対応もあった。
延長保育等
利用数は少ないが、利用者には適切に対応している。
教育環境整備
園児の作品や月のテーマに合った掲示がなされていた。キラキラタイムがコロナで延期されたり残念なこともあった。

③その他必要な評価

子育て支援センター/モコモコクラブ
非常に厳しい状況であったが、毎日ほぼおこなわれた。オンラインによる子育て支援も実施されたが、これらは今後の課題のひとつである。
食育と食事の提供
栄養バランスが取れた給食が提供されている。栄養士等による和食への研修参加が有り、今後の大きな飛躍に期待したい。
地域の行事への参加
村主催等の行事はほぼ中止となった。新年度への対応が期待されることである。

④課題と検討

本年令和3年度は10周年の節目の年であり、コロナ禍の厳しい中にも1年間を無事に終えられた感がある。幸い休園していないが、今後も園が通常通り開園されることを祈りたい。新年度は児童発達支援事業所がオープンすることに加え、職員自身が自らの研鑽に努め、丁寧かつ真摯な保育に邁進していただきたい。4月より130名台から始まる状況を考えると、子どもひとり一人を大切にしていってという保育を今後も進めてもらいたい。職員への資質向上や地域の子育て支援など、これまで以上に体制強化に努め、現下の保育に当たっていただきたい。

評価委員： 四ツ谷 隆輔(委員長) 梶沢 幸苗 住吉 枝里衣 菊池 麻衣 奥島 蘭